



日本医療機能評価機構

より高度な整形外科医療を志すために

たかおか 整志会

TAKAOKA SEISHIKAI

| 広 | 報 | 誌 |
2026
新年号
No.76



雨晴海岸の気嵐
(高岡市 雨晴海岸)

気嵐(けあらし)は冬の晴れた日の早朝に海面から霧が立ち上る自然現象で、大気が冷え込み、海水との温度差が生じることで発生します。気温が上がると消えてしまうため、気象条件がそろった朝のわずかな時間だけ見ることができます。雨晴海岸で眺める気嵐越しの立山連峰と女岩は富山を代表する冬の絶景です。

撮影者：栄養管理科 小野 悦子

CONTENTS もくじ

- 2 巻頭言 田中整形外科部長
- 3 麻酔関連薬剤供給制限下の全身麻酔管理
神谷麻酔科・痛み緩和診療部長
- 4 「健康寿命」 澤田利匡院長
- 5 整志会いきいき健康セミナー
- 6 新任医師紹介／やすらぎ事業／
秋の消防訓練
- 7 忘年会／BLS講習会／学会報告

高岡整志会病院 基本理念

- 1.市民の健康・医療・福祉の向上を目指し、明るい豊かな生活の実現に貢献します。
- 2.職員が生き生きとして豊かにその使命を発揮する場を作り、患者さんが迅速に社会復帰できるように努めます。
- 3.整形外科専門病院として、すべての患者さんの尊厳と権利を尊重し、最先端の技術で患者さん中心の治療を実践します。



日本医療機能評価機構認定病院

巻 | 頭 | 言

The greeting of the beginning of a book



整形外科部長 田中 利弘

2025年12月、青森県東方沖で発生した震度6強の地震と、それに伴い発令された津波警報により、2011年の東日本大震災の惨禍を思い出した方は少なくないでしょう。幸い、最終的には当初予想を下回る被害で収まったようですが、被災された皆さまにおかれましては、一日も早い日常の回復を心よりお祈り申し上げます。

新年を迎えるにあたり、私自身にとっては2024年元日に経験した能登半島沖地震はまだまだ新しい記憶として残っています。幸い自分自身は大きな被害こそなかったものの、その瞬間には東日本大震災で味わったあの恐怖が脳裏をよぎりました。

かつて物理学者・随筆家の寺田寅彦は「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉を残し、現在も災害への基本的教訓として広く知られています。この格言は、災害を経験すると一時的には危機感が高まるものの、時間の経過とともに日常が戻り、警戒心が薄れ、準備や備蓄が不足し、避難判断が遅れることで被害がより大きくなることへの警鐘です。その背景には、人間が本来持つさまざまな行動心理があります。例えば、時間が経つと「もう大丈夫だろう」「次は起きないだろう」と思い込む正常性バイアス、自分だけは被害を受けないだろうと考える楽観バイアス、周囲が避難しないから自分もしないという同調バイアス、時間の経過とともに記憶や反省が薄れる危機感の希薄化、そして備蓄や防災点検をつい後回しにしてしまう先延ばし傾向などです。

なかでも特に危険なのが、「今まで大丈夫だったのだから今回も大丈夫」という、過去の偶然的成功体験に基づく過信です。

そのため、防災訓練は単なる手順確認にとどまらず、こうした人間の心理特性を踏まえて実施することが重要であるといえます。災害時にはパニックによって判断力が低下し、身体が動かなくなることすらあります。日頃から行動を“自動化”しておくことで、恐怖で動けなくなる人や「大丈夫だろう」と思い込んでしまう人を減らし、避難開始までの迷いの時間を短縮します。

さらに、こうした人間の行動心理は、手術部位感染 (SSI) の管理・対策においても共通して見られます。

多少の発赤や腫脹を正常と過小評価する正常性バイアス、浸出液やびらんがあっても「そのうちおさまるだろう」と都合よく解釈する楽観バイアス、周囲でWHO推奨の手指衛生をその都度遵守している人などいないから自分も行わないという同調バイアス、多少手を抜いても問題がなかった経験が蓄積し「今回も大丈夫」と判断してしまう過信、そしてSSI好発時期の警戒心が落ち着くとともに対策が緩む慣れによる警戒心の希薄化などです。

また、災害対策と感染対策に共通する本質として、効果が可視化されにくいという問題があります。いずれも「何も起こらないこと」が最大の成果であり、努力や時間をかけても成果が“見えない”というのはモチベーションを高めるものではありませんが、その“何も起こらないこと”こそが最も価値ある結果です。

感染管理に携わる立場として、私は毎年、新年の抱負として「昨年よりSSI発生率を低下させます」と述べていますが、“忘れた頃の天災”ならぬ、“忘れぬうちに発生する”SSIこそ、職員一人ひとりが心理的バイアスに陥らぬよう、日頃から強い対策意識を保ち続けることが何より重要ではないでしょうか。

麻酔関連薬剤供給制限下の 全身麻酔管理



麻酔科・痛み緩和診療部長 神谷 和男

麻酔用鎮痛薬であるフェンタニル（写真1）は強力な鎮痛作用を有しており、手術中から手術後の痛みを低下させるため、当院ではほとんどの症例に使用されている。しかし、2025年3月～8月、生産過程での問題からフェンタニルの供給が大幅に減少した。そのため我々麻酔科医はフェンタニルの使用量を制限しつつ、患者さんに不利益を被らない、特に術後疼痛が強くない麻酔管理が求められた。

幸い当院麻酔科医は高齢ではあるがゆえに経験が豊富であり、今までの麻酔管理方法の変遷に立ち会っている。過去一時的に使用した薬剤の知識も持っている。薬剤として、レミフェンタニル（写真2）、ケタミン（写真3）とブプレノルフィン（写真4）を積極的に使用することになった。

レミフェンタニルは2009年より当院より使用してきた短時間作用性の鎮痛薬であり、その作用機序から手術中のみ使用になるが、術中のフェンタニル使用量を減少させることができた。ケタミンは皮膚、筋肉や骨の痛み（体性痛）に対して強い鎮痛作用を有しているため、術後疼痛に対して、フェンタニルの代替として使用した。ブプレノルフィンは過去一時的に術中・術後に使用されてきたが、フェンタニルよりも調節性に劣るため使用されなくなった。しかし、経験豊富な麻酔科医の元、使用され、フェンタニルの使用量減少につながった。

すべての薬剤に副作用はあり、どの麻酔管理方法がベストであるかの判定は難しい。しかし、小生が調査したところ、フェンタニルの使用量を大幅に減らすことができ、かつ術後疼痛は不変であったことが判明し、来年度の学会で発表する予定である。

フェンタニルは上述したように強力な鎮痛作用があるが、一方依存性という問題がある。それにより過剰摂取による死亡事故という社会的な問題が、特にアメリカ合衆国で生じている。

やや学問的になるが、フェンタニルが作用する μ （ミュー）受容体には多快感を引き起こすため、乱用すると依存性につながる。しかし、手術という侵襲下では κ （カッパ）受容体が作動して嫌悪感を引き起こす。そのため手術中～後は μ 作用＝ κ 作用となり、多快感も嫌悪感もなく依存性は生じない。よって手術での使用には心配はありません。



写真1



写真2



写真3



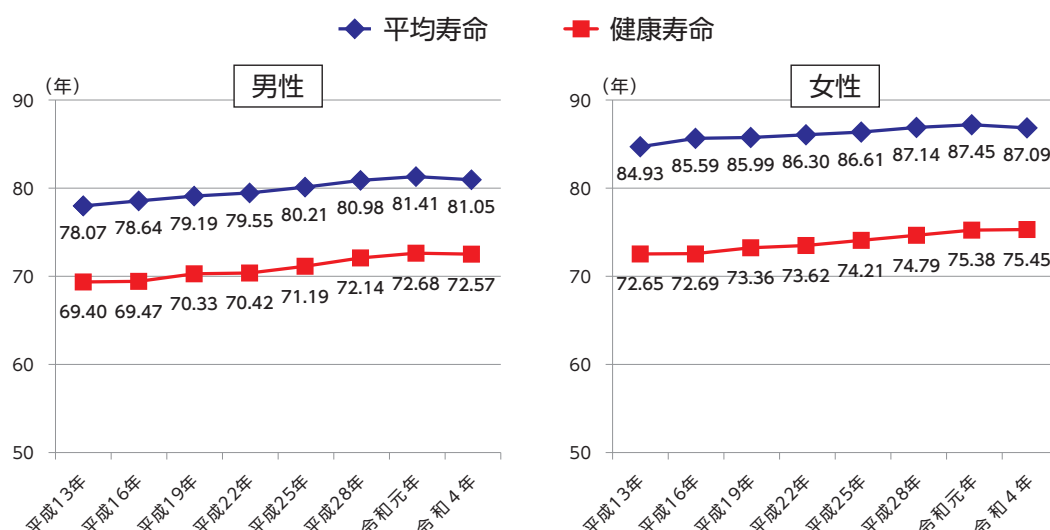
写真4

「健康寿命」



院長 澤田 利匡

ただ長生きするのではなく、健康な状態を保ちながら暮らしたいと願う人は少なくないでしょう。そこで重要になる考え方が「健康寿命」です。健康寿命は日常的、継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる期間のことです。平均寿命とは、生まれてから亡くなるまでの平均的な時間のことを意味しますが、健康寿命が健康に生活できる期間のことを指すということは、平均寿命から健康寿命を差し引いた残りの年数が、日常生活に制限を持ちながら暮らす時間となるのです。



引用：厚生労働省「健康寿命の令和4年値について」

健康寿命が伸びていることは素晴らしいことですが、同時に平均寿命も右肩上がりに伸びていることが分かります。平均寿命と健康寿命の差が生まれると、入院や介護が必要となる時間が長くなることが予想されます。

日本の健康寿命は、2022年の段階で男性が72.57歳、女性が75.45歳となっています。日本はシンガポールに次ぐ第2位です。日本の健康寿命が2位の理由にはさまざまな見解がありますが、その中でも健康保険制度は世界的にみても優れています。

ちなみに富山県の国内健康寿命ランキングは2024年厚生労働省の発表で、2016年 男性8位 女性4位、2019年 男性20位 女性10位、2022年 男性36位 女性20位（1位は男女とも静岡県）と年々低下しており、地方社会の高齢化の特徴がありますが、以前私が指摘した富山県の「平均睡眠時間」、「自動車保有率」も関係しているかもしれません。

健康寿命を伸ばすための方法としては栄養バランスの取れた食事、十分な睡眠、地域の活動やボランティアなど、社会活動の参加も健康寿命を伸ばすのにおすすめです。ロコモティブシンドロームにならないように定期的に運動をし、筋肉や関節、骨の運動機能を維持することも大切です。国民の健康寿命を伸ばすことは、医療を必要とする時期が少なくなることも意味するため、医療従事者不足の対策のひとつとなるでしょう。

整志会いきいき健康セミナー

人生100年時代の健康診断

令和7年10月4日(土) 於:富山新聞高岡会館

富山新聞文化センター健康講座「整志会いきいき健康セミナー 人生100年時代の健康診断 ～まずは知ることから始めるヘルスケア～」と題して市民公開講座を行い、約90人が参加されました。

澤田院長が「まだ間に合う、知って治せる骨の病気」と題し講演しました。腰痛と骨粗鬆症の診断、治療法について紹介し、腰の痛みの種類には原因のはっきりしている「特異的腰痛」と原因のはっきりしない「非特異的腰痛」があり、非特異的腰痛には1%重篤な病気の可能性があるため、我慢せずに早めの相談を呼びかけました。また中村リハビリテーション科長は「理学療法士から学ぶ腰痛の真実」と題し講演しました。

さらに今回は音楽に合わせてできる「楽しく続けることができる魔法の健康体操」を行いました。参加者の方はスライドに映し出された動画を見ながら「ヤングマン」の音楽に合わせて、スクワットやかかとあげ、肩回し、手の体操などを楽しそうに身体を動かし取り組みました。

その他、個別相談、健康チェック、ロコモ度チェック、歩行能力テスト、バランステスト測定をしました。アンケートからは「澤田院長のわかりやすい説明で勉強になり大変良かったです!!運動不足の指摘にドキッとしてしました。健康体操が大変良かったです。」などの感想をいただきました。次回開催時も多くの方にお越しいただき、地域の方たちと触れ合う機会を通して、今後も様々な企画を考え続けていきたいと思います。

*「楽しく続けることができる魔法の健康体操」の動画は当院のホームページ「自主トレーニング」のページから視聴可能です。ぜひご自宅でも取り組んでください。



澤田院長



中村リハビリテーション科長



ヤングマンの曲に合わせて♪



新任 医師紹介

附田 愛美

令和7年11月より整形外科医として勤務しておりますつくだと申します。出身は青森県で弘前大学を卒業後、同大学整形外科科学講座に入局し、青森県内の病院に従事しておりました。現在は脊椎外科を専門とするため勉強中です。初めて青森県外で生活し、いかに自分が方言を使っていたか思い知りました。伝わらない単語があれば気軽に聞き返してください。どうぞよろしくお願いします。



「よさこい」やすらぎ事業

令和7年12月5日(金)会議室 〈業務改善委員会〉

令和7年12月5日(金)に射水市拠点のよさこいチーム「湊や」によるやすらぎ事業を開催し、入院患者さん約20名を含む50名が参加されました。オリジナル曲の「日本私設応援団湊や」などの曲に合わせ力強い演舞を披露され会場内は歓声と拍手でいっぱいとなりました。今回出演した「湊や」のメンバー7名のうち2名は当院に勤務している理学療法士の蓼輪彩加さんと看護師の仙納泉さんで、自己紹介されると患者さんからびっくりした表情で歓声があがり、いつもと違った雰囲気 of 病院スタッフに魅了されて



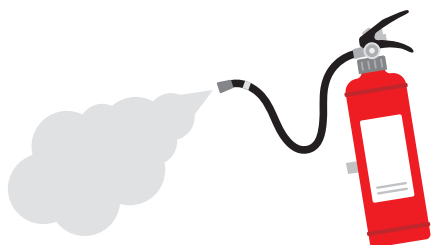
仙納看護師と蓼輪理学療法士

していました。また「湊や」指導のもと参加者も鳴子を持ち、「ヤングマン」に合わせてよさこいを踊り、最後は会場が一体となりさらに盛り上がりました。終了後には患者さんより「楽しかった」「あっという間に時間が経ちました」「また演舞を観てみたい」との感想をいただきました。入院生活の中で痛みを忘れ笑顔になる時間を提供できたことを嬉しく思います。

秋の消防訓練

令和7年11月21日(金) 〈防災管理委員会〉

当院では年に2回、消防訓練を実施しています。今回の消防訓練も感染症対策を十分に行い、職員の協力のもと無事に訓練を終えることが出来ました。今回は日勤帯の病室からの出火を想定した総合訓練でした。病室で出火が起こった際には、早急に患者の安否確認や所在確認をする必要があります。それでも訓練の参加者は慌てることなく、その場で状況を判断し、参加者同士で役割を割り振りながらしっかりと対応ができていました。今後も、どのような状況であっても慌てることなく、冷静で迅速な対応ができるように消防訓練を実施していきます。



忘年会

令和7年12月13日(土) 於:ホテルニューオータニ高岡 〈企画委員会〉

今年も忘年会が開催されました。有志による余興では、開院40周年を記念した替え歌「勝手にシンドバット」が披露され、過去の医師たちの若かりし頃の写真がスライドで映し出されるなど、会場は驚きと笑顔に包まれました。そのほかにも、楽しい余興が次々と披露されました。おいしい料理を囲みながら歓談し、和やかで楽しいひとときを過ごすことができました。また、当院のバンド「リバーサイド」も、日頃の練習の成果を発揮し、素晴らしい演奏を披露しました。このように、一つの行事を職員皆で楽しめる当院は、本当に素晴らしい病院であると改めて実感するとともに、職員一人ひとりの笑顔の大切さを強く感じた一日となりました。これもひとえに、皆様方のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

2026年も、笑顔あふれる明るく楽しい病院づくりを目指してまいりたいと、心より願っております。



澤田院長 挨拶



佐藤根サンタ



先生方 熱唱です



紅だアーッ!!



40年前もイケメンですね!



♪ジャパーン! ♪ジャパーン!

BLS講習会

令和7年9月12日(金)会議室 看護補助者 岡津 周子

BLS講習会では一人で頑張るのではなく、周囲の人に協力を求めることが大切であることを学びました。119番通報やAEDの手配を仲間に依頼し、胸骨圧迫を交代しながら行うことで救命の可能性も高くなると理解しました。さらに、お風呂など水場で倒れた場合は、胸の水分をしっかりと拭き取ってからAEDのパッドを装着する必要があることも学びました。AEDの操作は音声順番に指示を出してくれるので私でも安心して使用することができました。普段から「どこにAEDがあるのか」を意識して確認しておくことが必要だと感じました。

今回の講習を受けて、不安もありますが知っている練習したことがあるというだけで少し自信もつきました。大切な人や目の前の人を守るよう講習で学んだことを活かしていきたいです。



学会発表 2025年9月～12月

² 麻酔科 ³ 薬剤科 ⁵ 看護部

◆第58回日本薬剤師会学術大会

2025年10月12日～13日 国立京都国際会館

「整形外科急性期病院におけるトレーシングレポートと疑義照会による副作用・相互作用の早期発見と対応」

○篠田健一³、川原由紀子³

◆第47回日本手術医学会総会

2025年11月14日～15日 広島国際会議場

「業者貸出手術器械マネジメントの改善」

○齊藤優子⁵、松井愛⁵、河辺薫⁵、尾崎竜英⁵

◆第35回日本医療薬学会年会

2025年11月22日～24日 神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル

「術中・術後ステロイド投与が血糖値に及ぼす影響～ステロイド投与後の血糖コントロール強化策はSSI予防につながるか?～」

○川原由紀子³、篠田健一³、上坂真依子³

「フェンタニル・アルチバ供給制限下における整形外科術後疼痛管理：ブプレノルフィン・ケタラール併用療法の有効性」

○篠田健一³、川原由紀子³、上坂真依子³、松井愛⁵、吉田亜希絵⁵、早苗佐織⁵、坂巻 緑²、神谷和男²、畠山 登²、佐藤根敏彦²



地域における「かかりつけ医」から整形外科専門病院として、

■ 患者さんの権利

1. プライバシーと尊厳が守られ、差別なく公平な医療を受けることができます。
2. 十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方法などを自らの意志で決めることができます。

～個人情報保護法について～

当院では、個人情報保護管理委員会を設置し、患者さんの個人情報保護に全力で取り組んでいます。ご意見、ご質問は総合受付へお気軽にご相談下さい。

■ 外来診療担当医師のお知らせ

月～木/午前8時～12時 午後2時～5時30分、金～土/午前8時～12時

2025年11月1日より

		月	火	水	木	金	土
午前	整形外科	8:00～12:00 川岸 (脊椎・整形一般)	8:00～12:00 澤田 (脊椎・整形一般)	8:00～12:00 田中 (脊椎・整形一般)	8:00～12:00 川岸 (脊椎・整形一般)	8:00～12:00 川岸 (脊椎・整形一般)	8:00～12:00 川岸・瀬川 第1 澤田 第2・5
		澤田 (脊椎・整形一般)	瀬川 (関節・整形一般)	金粕 (膝人工関節専門・整形一般)	9:00～12:00 中原 (手外科・整形一般)	長沖 (整形一般)	田中 第3 金粕 第4
	関節外科					第1・3金曜日 9:30～12:00 瀬川(予約制)	
	側弯外来						第2・4土曜日 9:00～11:00 関(予約制)
	痛み緩和 診療外来					第2・4・5金曜日 9:00～11:40 神谷(予約制)	
午後	整形外科	2:00～5:30 田中(脊椎・整形一般) 中野(予約制あり) (脊椎・整形一般)	2:00～5:30 澤田 (脊椎・整形一般)	2:00～5:30 金粕 (膝人工関節専門・整形一般)	2:00～5:30 瀬川(関節・整形一般) 附田(整形一般)	休診 午後の診察の受付は午前より行っています。 午前(月～木)の診察は、手術により12時以降は他の医師の診察となる場合がありますのでご了承ください。 担当医師が学会等で不在や診療時間が急に変わる場合がございますので、事前にお問い合わせください。 ●電話によるお問い合わせ 月～木 9時～17時 金・土 9時～12時	
	股関節外来			2:00～5:00 高橋(予約制あり)			
	慢性の 痛み外来		2:00～5:30 畠山(予約制)				
	痛み緩和 診療外来			第1・2・4・5水曜日 3:00～5:00 神谷(予約制)	2:00～5:20 神谷(予約制)		
	発熱外来	1:00～2:00 川岸利臣(予約制)					

病院周辺図



◆あいの風とやま鉄道で高岡駅下車

古城公園口(北口)より約700m 徒歩約8分

◆北陸新幹線で新高岡駅下車

新高岡駅より約3km タクシーで約10分

※新高岡駅～高岡駅間は、
城端線で約5分、バスで約15分

〒933-0039 富山県高岡市大手町 8-31

TEL (0766) 22-2468

FAX (0766) 26-7948

編集後記

免疫細胞が正常に機能する体温は36.5℃だそうです。寒い日が続きますが、湯船に浸かり、温かい飲み物を飲んで、免疫力を高めましょう! ㊦

ホームページに
アクセスできます

